



看護部(入職1年目)
手術室

みとう ゆうた
三藤 悠大

高校時代は消防士を目指していましたが、試験に落ちて断念。しかし「誰かの役に立ちたい」という思いは変わらず、看護師の知人や看護専門学校に通っていた姉の影響もあり、看護の道へ進みました。手術室に入る時は事前準備を丁寧に行い、物品の確認や手術の流れをしっかりと頭に入れて臨んでいます。質問に丁寧に答えてくださる先輩が多く、安心して学べる環境に感謝しています。手術後は振り返りノートに反省点や次への工夫をメモし、一歩ずつ成長できるよう心がけています。今後も確かな知識と技術を身につけ、チームに貢献できる看護師を目指して頑張ります。



看護部(入職1年目)
救命救急センター

しみず しずく
清水 しずく

人と関わり、人のために行動することが好きで介護福祉士として働いていましたが、経験を重ねる中で力不足を感じ、より専門的な知識と技術を身につけたいと思うようになり、看護師を志しました。幼少期に台風による高潮災害、近年では熊本地震を経験したことで、災害医療や救急分野にも関心を持つようになりました。日々の業務では、検査や処置などに積極的に取り組み、多くの経験を積むことを心がけています。今後も、先輩方や患者さん、ご家族との関わりを大切に、自ら考えて行動できる看護師を目指して、日々挑戦と成長を続けていきたいです。

好きな言葉: 成せばなる

座右の銘: 実るほど頭を垂れる稲穂かな

旬素材で 健康レシピ

栄養
管理室が
発信！

管理栄養士
やまむろ みほ
山室 未歩



今回のレシピに使う鮭やきのこには、ビタミンDが豊富に含まれています。ビタミンDはカルシウムの吸収を助けて歯や骨を丈夫に保つだけでなく、免疫機能の調整や筋肉・神経の働きにも欠かせない栄養素です。さらに、ビタミンDは日光を浴びることで体内でも作られますが、秋から冬は日照時間が短くなるため合成量が減り、不足しやすくなります。だからこそ、食事から意識的に摂ることが大切。季節の変わり目で体調を崩しやすいこの時期、旬の食材を取り入れておいしく栄養補給しましょう。

no. 31 秋の味覚たっぷり鮭のクリーム煮

材料
(2人分)

鮭……………2切れ
しめじ……………1/2株
しいたけ……………2個
玉ねぎ……………1/2個
薄力粉……………大さじ2
牛乳……………300ml
バター……………20g
○調味料
コンソメ……………小さじ1
砂糖……………小さじ1
塩……………小さじ1/4

作り方

- ①しめじは石づきを取り小房に分け、椎茸と玉ねぎは薄切りにする。
- ②鮭は一口大に切る。
- ③フライパンにバターを溶かし、鮭・玉ねぎ・きのこ類を中火で炒める。
- ④具材に火が通ったら薄力粉を加え、粉っぽさがなくなるまで炒める。
- ⑤牛乳を少しずつ加え、混ぜながらとろみをつける。
- ⑥調味料を加えて味をととのえる。
- ⑦器に盛りつけ、お好みでパセリを散らして完成。



前号・前々号の読者アンケートにご協力くださった皆さま、誠にありがとうございました。いただいたご意見やご感想を参考に、今後もより有益で親しみやすい誌面づくりを目指してまいります。
今号の制作中、県外から当院を志望して入職された職員の方とお話する機会があり、その行動力と熱意に心を打たれました！これからも、そんな当院の魅力や取り組みを丁寧に伝えていければと思います。



JCHO 徳山中央病院広報誌「Smile」
vol.031 2025年11月1日発行

ご意見・お問い合わせは… JCHO徳山中央病院 総務企画課
TEL: 0834-28-4411 E-mail: main@tokuyama.jcho.go.jp
発行/JCHO徳山中央病院
direction&design/株式会社 しろくまワークス
writing/小野理枝 photo/Photo Office MOTHER LEAF

【スマイル】

地域のみなさと『JCHO徳山中央病院』をつなぐ
コミュニケーションマガジン

ご自由
にお持ち帰
り
ください

vol.031
November.2025

診療科情報 P1-2

「血液のがん」は治せる時代に ～新しい治療と希望～

血液・糖尿病内分泌内科 山下 浩司

Hello! 部署訪問 P3

西館6階病棟

(血液・糖尿病内分泌内科、呼吸器内科、放射線科)

特定看護師 P4

西館4階病棟(整形外科) 歳本 真由美

地域医療連携協力医 突撃レポート P5

ひかり腎泌尿器科クリニック よろず相談室

P6

NEWS & REPORT!・医療Pick up!
CLOSE UP! 健診センター・ここにもSMILE!

表紙のはなし: フレッシュスマイル! P7

看護師 三藤 悠大 看護師 清水 しずく

旬素材で健康レシピ P7

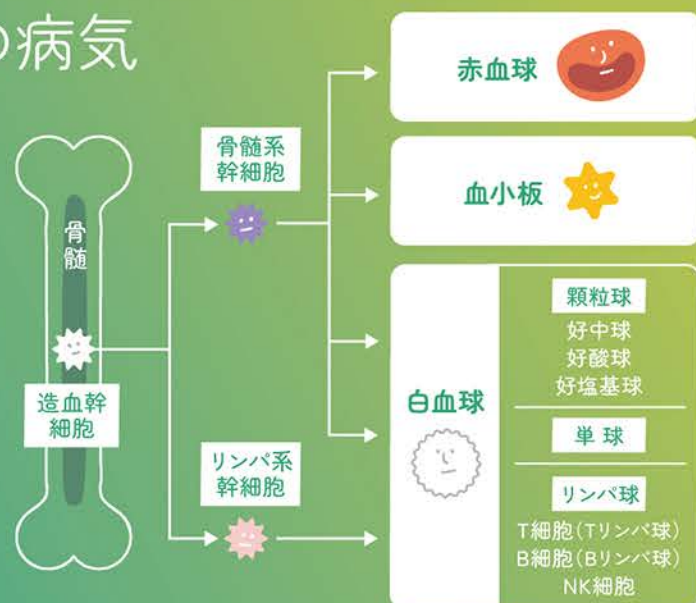
秋の味覚たっぷり鮭のクリーム煮
管理栄養士 山室 未歩

命を支える“血液”と、その病気

私たちの体の中を流れる血液は、体を守り、生きる力を届ける大切な存在です。

血液には「赤血球」「白血球」「血小板」という成分があり、それぞれが役割を持っています。赤血球は酸素を運び、白血球（顆粒球、リンパ球、単球）は細菌やウイルスと闘い、血小板は出血を止めます。これらはすべて骨の中にある「骨髄」という工場で作られています。骨髄は背骨や骨盤、胸骨などに多く存在し、その中で血液のもととなる細胞（造血幹細胞）が分化してさまざまな血球となり、血管を通じて全身に送り出されます。

しかし、この血液の細胞が異常に増えてしまう病気があります。それが「血液のがん」です。



血液のがん — 代表的な3つのタイプ

血液のがんにはいくつかの種類がありますが、代表的なのは下記の3つです。それぞれの病気の原因や症状、治療法が異なります。

急性白血病

骨髄で未熟な白血球が異常に増える病気です。その結果、正常な血液細胞が作られにくくなり、発熱や肺炎などの感染症、強い貧血、あざや鼻血などの出血が起こりやすくなります。

悪性リンパ腫

リンパ球ががん化する病気で、血液がんの中で最も多いとされています。リンパ節が腫れるほか、原因不明の発熱、寝汗、体重減少といった症状が出ることもあります。

多発性骨髄腫

骨髄にある「形質細胞」ががん化して異常なたんぱく質を作り続ける病気です。貧血や腎臓の働きの低下が見られるほか、骨がもろくなり骨折を起こしやすくなります。

検査と診断 — 体の中を“のぞく”技術

血液のがんを診断するには、骨髄の状態を詳しく調べる**骨髄検査**が欠かせません。腰の骨に細い針を刺して骨髄液を採取し、細胞の性質や数を調べます。

また、がんの有無や広がり、転移を調べるために**PET-CT検査**を行うこともあります。がん細胞は正常細胞より多くの糖分を消費する性質があり、それを利用して「がんがどこで、どのくらい活発に活動しているか」を画像で確認することができます。CT検査やMRI検査と異なり、細胞の活動性を把握できる点が特徴です。



新しい治療と希望

「血液のがん」は治せる時代に

日々進歩する治療法

かつて血液のがんは「治らない病気」といわれてきました。しかし今は違います。抗がん剤による化学療法に加え、分子標的治療薬や免疫療法などの新しい治療法が次々と登場し、治療成績は大きく向上しています。

化学療法（抗がん剤治療）

がん細胞を薬で攻撃する治療です。数か月以上かかることもありますが、患者さんの状態に合わせて組み合わせや投与量を調整し、安全で効果的な治療を行います。

分子標的治療薬

がん細胞の増殖や生存に関わる特定の分子だけを狙って攻撃する薬です。がん細胞に特化して作用するため、副作用を抑えながら効果的に治療できます。

放射線療法

がん細胞にピンポイントで放射線を当て、増殖を抑えたり死滅させたりする治療です。主に他の治療と合わせて用いられます。

免疫療法（CAR-T療法）

患者さん自身の免疫細胞を培養・加工し、がんを攻撃する新しい治療です。当院では実施していませんが、県内では山口大学附属病院で行われています。

二重特異抗体

2種類の異なる抗原に同時に結合する人工的なタンパク質で、がん細胞とT細胞を直接つなぎ、免疫の力でがんを攻撃する治療です。

造血幹細胞移植

他人や患者さん自身の骨髄から採取した造血幹細胞を移植し、正常な造血機能を取り戻す治療です。適応は限られますが、根治を目指す手段のひとつです。

近年は、これらの治療を組み合わせることで、以前より高い確率で治癒が可能になり、患者さんの生活の質も維持しながら治療を進められるようになっていきます。

未来に向けて — 希望は広がっています

血液のがんは決して珍しい病気ではありません。誰にでも起こりうる可能性があるからこそ、正しい知識と理解が大切です。かつては「治らない」と恐れられていた血液のがんは、近年の治療法のめざましい進歩により、「治せるかもしれない」と言える時代になってきました。新しい薬や免疫療法、造血幹細胞移植などの治療法が次々と登場し、未来への希望はますます広がっています。

治療には時間がかかり、生活に制約も生じます。それでも私たち医療スタッフは、チーム一丸となって患者さんをご家族を支えながら、共に病気と向き合っています。患者さんの思いに寄り添いながら、少しでも安心して前を向けるようお手伝いすることが、私たちの役目です。

もし長引く発熱や強い倦怠感、原因不明の貧血やリンパ節の腫れなどが気になる場合は、早めの受診をおすすめします。早期の発見と治療が、未来を切り開く大きな一歩になります。安心してご相談ください。

血液・糖尿病内分泌内科 主任部長

やました こうじ
山下 浩司



Hello! 部署訪問

no.31

今回ご紹介するのは…

“西館6階病棟”

(血液・糖尿病内分泌内科、呼吸器内科、放射線科)

西館6階病棟は、血液・糖尿病内分泌内科、呼吸器内科、放射線科の混合病棟です。

血液・内分泌内科では、白血病や悪性リンパ腫など血液のがんに対する治療を行っています。主な治療は薬を用いたがん薬物療法です。近年は従来の抗がん剤に加え、分子標的治療薬や免疫チェックポイント阻害薬などの新しい薬が次々と開発され、より高い治療効果が期待されています。薬剤の組み合わせや投与方法は複雑であるため、病棟では2名のがん薬物療院内認定看護師と副師長を中心に、スタッフ全員が正しい知識と技術を共有し、安全で質の高い医療を提供できるよう取り組んでいます。1回の治療に3〜4週間の入院を要することも多く、患者さんと長期間関わることで感じる絆が、看護師としての大きなやりがいにつながっています。さらに、当病棟では年間数例の自家末梢血幹細胞移植も行っており、副作用で免疫力が低下した患者さんに対応できるよう、3床の無菌室(クリーンルーム)を備えていることも特徴です。

2024年度に新設された呼吸器内科では、肺がんをはじめ、COPD(慢性閉塞性肺疾患)、間質性肺炎、喘息など、呼吸器の病気で入院される患者さんの治療にあたっています。酸素療法やステロイドパルス療法を受ける方が多く、退院後も酸素を使いながらご自宅で安心して生活できるよう、作業療法士と共に歩行練習などのリハビリに取り組んでいます。また、高齢で一人暮らしの患者さんも少なく

ないため、医師や看護師だけでなく、MSW(医療ソーシャルワーカー)、栄養士、薬剤師、リハビリスタッフといった多職種が連携し、退院後の生活を支援しています。退院前にはケアマネージャーや訪問看護師とカンファレンスを行い、住み慣れたご自宅で安心して療養生活を続けられるようサポートしています。病棟方針である「患者・家族に寄り添った安全で質の高い医療の実践」を掲げ、自分や家族に受けてもらいたいと思える看護の提供を目指しています。

西館6階病棟は、看護師の平均年齢が33歳と若さあふれるスタッフが多いのも特徴です。今年6月には、コロナ禍で長らく中止されていた部署対抗ソフトタッチバレーボール大会が約5年ぶりに開催されました。休日に体育館を借りて練習を重ね、当日は医師の似顔絵入りおそろいTシャツを着て出場しました。結果は惜しかったものの、笑顔とチームワークで大いに盛り上がり、かけがえのない思い出となりました。

これからも、若さとチーム力を生かして患者さんに元気を届けられる病棟でありたいと考えています。



部署データ

・血液・糖尿病内分泌内科医師	5名	・看護師	31名
・呼吸器内科医師	4名	・看護補助者	5名
・放射線科医師	6名		

西館6階病棟スタッフ

マストアイテム教えてください!

抗がん剤治療を受ける患者さんが多いため、それぞれの薬の効果や副作用を確認できる「バイブルブック」は欠かせない存在です。業務中だけでなく、自宅に持ち帰って予習・復習をすることもあります。患者さん一人ひとり、そしてご家族の背景に寄り添いながら、安心して治療に臨めるようなコミュニケーションを心がけています。



看護師
ながお つくし
永尾 築

この病棟に配属された際、「これから一緒に頑張りましょう」という思いを込めて、一人ひとずつタイマーをプレゼントしていただきました。忙しい毎日の中でも、点滴中の患者さんの状態確認を忘れないための、大切なマストアイテムです。



(左) 看護師
あさの りおな
浅野 莉緒奈
(中) 看護師
よこみち もえ
横道 萌
(右) 看護師
かわむら はつき
河村 葉月

Certified Nurse

特定看護師

Certified Nurse Specialist

徳山中央病院では現在31名の看護師が特定行為研修を修了しています。今回は、整形外科病棟に在籍する「創傷管理関連」「栄養および水分管理に関わる薬剤投与関連」を行っている特定看護師をご紹介します。

特定看護師って?

指定研修機関において特定行為研修を受けた看護師が、患者さんの状態を見極め、適切なタイミングで診療の補助を行います。医師による手順書に準じて、患者さんの状態に応じたタイムリーな医療行為を提供できます。

My Favorite!

趣味は、海外ドラマ鑑賞。特に、医療系や刑事・科学捜査系が好きで、作品を観ながら疾患や治療方針を予想したり、犯人を推理したりなど、事件の展開を想像して楽しんでいます。



西館4階病棟 (整形外科) としもと まゆみ
歳本 真由美

整形外科病棟での役割を教えてください

私は2024年に「創傷管理関連」2行為、「栄養および水分管理に関わる薬剤投与関連」2行為の特定行為研修を修了しました。現在は、整形外科病棟に在籍しています。

整形外科病棟では、入院患者さんの約4人に1人が緊急入院されます。夜間や休日の受け入れも多く、高齢の方が転倒などで骨折し、動けなくなって入院されるケースがほとんどです。高齢者は一人暮らしの方も多く、受診が遅れて水分や食事が十分にとれないまま入院される場合も少なくありません。

入院後は安静が必要となる上、患者さんは強い痛みや不安を抱えています。活動量が減り、「食欲がない」「食べたくない」と食事を拒む方や、骨折の痛みで座ることすら難しい方もいます。さらに、高齢の患者さんは飲み込む力が弱っていることも多く、誤嚥のリスクも高まります。そのため、入院前よりも食事や水分摂取量が減り、点滴による対応が必要になることも少なくありません。

私たち看護師は、そうした患者さんの苦痛に寄り添い、少しでも緩和できるよう、薬剤師や管理栄養士と連携しながら、栄養や水分摂取のサポートをしています。

どんな特定行為を行っているのですか?

これまでは脱水の兆候を見つけても、医師の指示を待たなければならず、対応が遅れることにもどかしさを感じることもありました。なぜなら、整形外科医師は、外来日以外は手術に入っていることが多く、すぐに指示が得られない場合もあるからです。

しかし、研修修了後は、医師と共有した手順書に基づき、看護師の判断でタイムリーに点滴を開始できるようになりました。早期に介入することで、脱水症状が早く改善し、その後の食事が回復します。「点滴をしてもらって安心した」と患者さんに言っていただけることもあり、大きなやりがいにつながっています。

今後の目標を教えてください

特定行為研修は勉強量が多く、仕事や家庭との両立もあり大変でしたが、講義を担当くださった医師や先輩看護師の支え、友人の励まし、そして子どもからの「ママ、頑張ってるね!」という言葉に背中を押され、乗り越えることができました。

当院は学びのサポート体制が整っているため、今後も新しい特定行為に挑戦し、患者さんによりタイムリーな医療を届けたいと思っています。また、特定看護師がさらに増え、安心できる医療が広がっていくことを願っています。



地域医療連携協力医 突撃レポート! Report

当院と連携する地域の“かかりつけ医”をご紹介します。
専門的な診療や予防医療に対応する
クリニックの魅力や特徴をお伝えしていきます

今回ご紹介する
クリニックは…

医療法人 陽心会

ひかり腎泌尿器科 クリニック

院長 **井上 亮** 先生



診療科目／泌尿器科、人工透析
光市中央4丁目5-8 TEL.0833-48-5000

受付時間	月	火	水	木	金	土	日祝
8:30~12:30	●	●	●	●	●	●	-
14:00~17:30	●	●	●	-	●	-	-

PROFILE

日本泌尿器科学会専門医。医学博士。
山口大学医学部卒業、同大学医学部大学院卒業。
済生会下関総合病院、周東総合病院、下関厚生病院（現 下関医療センター）、山口大学医学部
附属病院等を経て、2021年に「ひかり腎泌尿器
科クリニック」を開業。趣味はゴルフ。

4年前に光市に開院した「ひかり腎泌尿器科クリニック」は、腎臓・尿管・膀胱・尿道などの尿路に関する臓器と、男性の生殖器（前立腺・精巣）の病気を専門にする診療科です。

院長の井上亮先生は、およそ20年間にわたる総合病院での経験を活かして、地域に密着した診療を行っています。

「何より大切にしているのは、患者さんに満足して帰っていただくことです。患者さん一人ひとりの背景や希望は異なります。だからこそ患者さんの声に耳を傾け、『こんな状態になりたい』という具体的なゴールを共有し、それを踏まえた上で治療方針を立てるように心がけています」

泌尿器科と聞くと「男性が行くところ」という印象が強いかもしれませんが、性別や年齢を問わず、全ての人が対象となる診療科です。「膀胱炎や過活動膀胱、尿もれといった排尿に関するトラブルは、デリケートなだけに周りに相談しづらく、受診するか迷ってしまう女性も少なくありません。しかし、放っておくと病気の進行につながる可能性もあります。『しばらくすれば治るはず』『市販薬で様子を見よう』と自分で判断せず、早めに専門医に相談してください」

腎臓は、毛細血管が複雑に絡み合った“血管の塊”ともいえる臓器です。そのため、生活習慣病（高血圧・糖尿病・脂質異常症など）によって動脈硬化を引き起こすと、腎臓に十分な血液が流れず、老廃物や水分の排出がうまくいなくなるため、腎不全や腎硬化症などの病気を引き起こす恐れがあります。

「そうした腎臓病を予防するためには、生活習慣病にかからないことが重要です。パ



ンスのとれた食事、適度な運動や水分摂取など、日々の生活習慣を見直しましょう。また、腎臓は“沈黙の臓器”と呼ばれるように、機能が低下しても症状が出にくいので、自分で気づくことがなかなかできません。病気の早期発見・治療のためにも、定期的に健診を受けることをおすすめします」

ひかり腎泌尿器科クリニックでは、慢性腎不全に対する治療として、透析治療も行っています。吹き抜けの天井、木の温もりを感じられる広々とした透析室には、透析治療装置を30台設置。車いすで安全に移動することができて、ベッドに横たわる3～5時間をできるだけリラックスして過ごせるように、ベッドの間隔にも十分なスペースを確保しています。

「より良い透析治療を提供するために、全台オンラインHDFと呼ばれる透析治療装置を採用しています。これによって、より多くの老廃物や毒素を効率的に除去することができるようになり、患者さんへの負担が少なく、生活の質の向上も期待できます」

泌尿器に関する悩みは、誰にでも起こりうる身近なものです。「排尿時に痛みや違和感がある」「尿の色がいつもと違う」「腰や背中が痛い」といった症状を見逃さず、早めの受診を心がけましょう。

地域のみなさまと病院をつなぐ地域医療連携の窓口です

地域連携室・医療相談室

退院・転院支援や、活用できる社会制度の情報提供、患者さんやご家族のご心配事など、誰に相談していいかわからなくて困っていませんか？どんなことでもかまいません。まずはお気軽にご相談ください。

お電話でもOK! (0834) 28-4411 (代表)



NEWS & REPORT!

厚生労働大臣表彰に輝く

沼文隆 院長が「令和6年度 社会保険診療報酬支払基金 厚生労働大臣表彰」を、原田有彦 副院長が「令和7年度 救急及び医療功労者 厚生労働大臣表彰」を受賞しました。いずれも長年の医療活動が評価された栄誉ある受賞です。



わくわく病院たんけん隊!!開催

8月23日(土)、市内外の小学5・6年生を対象に、体験型病院見学会『わくわく病院たんけん隊!!』が6年ぶりに開催されました。当日は、脊椎手術の疑似体験や手術支援ロボット「ダヴィンチ」の操作、傷の手当て、血液型判定など、さまざまな医療の現場を体験しました。白衣を着て真剣に話を聞く姿や、医療機器に目を輝かせて触れる様子が印象的でした。会場には笑顔があふれ、保護者の方々も一緒に楽しむ貴重な時間となりました。今回の体験が、医療を身近に感じ、将来の夢を描ききっかけになれば幸いです。



PICK UP!

医療に関する疑問にお答えします!

“乳がん検診”の疑問アレコレQ&A! (回答者:放射線部 濱中 里緒)

マンモグラフィってどんな検査?

マンモグラフィは乳房専用のX線検査で、乳がんを早期に発見するのにとても有効です。乳房を圧迫して撮影するため、ほんの数ミリの变化もとらえることができます。圧迫による痛みが心配な方は、生理後の乳房が柔らかい時期に受けてと安心です。「早期発見・早期治療につなげる」ための大切な検査です。

エコー検査との違いは?

エコー(超音波)検査は、放射線を使わないため痛みや

地域とともに学ぶ

当院は山口県知事より承認を受けた「地域医療支援病院」として、地域医療従事者への研修を行っています。7月16日には本館11階大会議室で「神経分野」をテーマに合同研修会を開催しました。脳神経外科の上田医師からは脳梗塞の血栓回収術、脳神経内科の小笠原医師からは神経痛性筋萎縮症、整形外科の今城医師からは腰部脊柱管狭窄症や頸椎症性脊髄症についての講演が行われました。

参加者は院外37名(うち医師13名)、院内60名と予想を上回る盛況ぶり。多大なるご協力をいただき感謝申し上げます。次回は10月「消化器分野」をテーマに予定しています。皆さまのご参加をお待ちしております。

職員の団結で挑んだ徳山夏祭り

7月19日(土)に「第52回徳山夏祭り」が開催され、徳山中央病院として約6年ぶりに神輿の練り歩きに参加しました。5月初旬に職員有志による実行委員を立ち上げ、準備や練習を重ねて本番を迎えました。

当日は銀座通りから平和通りを熱気とともに神輿が進み、メインステージではダンスと神輿を融合させた演技を披露し、見事「ファンタジー賞」を受賞しました。今回の参加を通じて得られた団結力と活気を、今後の診療にもつなげてまいります。



CLOSE UP! 健診センター

自分のために、大切な人のために

当センターでは、30歳以上の方を対象に マンモグラフィ(乳房X線)による乳がん検診を実施しています。多くの方は健康診断のオプションとして受診されていますが、40歳以上の周南市・下松市にお住まいの方は、市の受診券を利用することで、自己負担を抑えて受けることができます(2年に1回)。それ以外の方でも、自費でお申し込みいただけます。

乳がんは、1つのがん細胞が1cmになるまでに10年以上かかるといわれていますが、1cmから2cmに成長するのはわずか1~2年とされています。一般的に「早期がん」とされるのは1~2cmの段階です。早期発見のためにも、40歳を過ぎたら2年に1回の定期検診をぜひ受けてください。



健康管理センター長
内田 正志

健康管理センター 予約・お問合せ係
(受付/10:00~18:00)

0834-28-4411 (代表)

医療の ギモンにお答え!

第31回

よろず

相談室

問 病気やケガで会社を長期的に休むことになったので、経済的に不安です。

答 病気やケガで働けなくなり、その間に給与が支給されない場合には、「傷病手当金」という制度があります。これは健康保険に加入している会社員ご本人が対象で、支給額は給与のおおよそ2/3、最長で1年6カ月受け取ることができます。ただし、国民健康保険に加入している方は対象外となります。